

とちぎ夢大地応援団第3回カレッジ活動報告(令和2年11月8日実施)

日光市 土呂部地区 「茅ポッチ撤去作業」

日光市土呂部地区で令和2(2020)年度第3回「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」と令和2(2020)年度第2回「とちぎ夢大地応援団活動」を行いました。宇都宮クランク高等学院、文星芸術大学の生徒や学生その他、とちぎ夢大地応援団A会員が参加し「茅(かや)ポッチ」撤去作業に取り組みました。

カレッジ活動は次世代を担う若い世代に、農作業や農村資源の保全活動を体験してもらい、農業・農村の果たす役割の理解促進を図る事などが目的です。

県内の高校生や大学生、短期大学生などを対象に各種の活動を実施しています。この日は、「日光茅ポッチの会」が受け入れ組織となり、都市住民ボランティアであるとちぎ夢大地応援団A会員の活動と同時に開催しました。

土呂部地区は過疎化、高齢化が進んでいますが、屋根の材料や牛馬の飼料になるカヤを採る「茅場」が残る数少ない地域です。同会は「茅ポッチ」作りなどを通して、土呂部の里山風景や草原植物を守る活動を行っています。

参加者は同会の飯村孝文代表から会の活動や「茅ポッチ」作りの意義などを聞いた後に、会員から解体の方法等を教わりました。

前回、制作した茅ポッチを解体し、牛の餌用に束ね直して、近くにある三沢原牧場へ運び込み、飼育管理されている和牛に給餌体験を行いました。

飯村代表は「Facebook等を介して、活動報告を発信しているので、チェックしてほしい」と参加した皆さんへ情報発信のお手伝いをお願いしたいと期待を込めました。



▲秋晴れに恵まれ、気温も心地よく、さわやかに活動を行えました。



日光茅ボッチの会；代表飯村さんから、茅ボッチの解体方法を教わりました。
また、牛のえさとして良いように、紐も茅を使用し、小さく束ねるよう指導がありました。



100束以上もあった茅ボッチは、このように堆く積み上げられ、軽トラックからこぼれ落ちるほどの量となりました。
このまま、三沢原牧場へ運ばれます。
参加した皆さんは、牧草、牛、食卓といった食育のサイクルを学びました。



茅場散策の様子になります。
ここでは、希少な植物を保存し、里山の管理を行うことで、自然が守られる様子を解説しました。ゆっくりと歩きながら、茅ボッチの会の会員より、解説を受けました。
かつて、スキー場だった様子やかっぱの泉の見学など小さな発見がいっぱいです。



三沢原牧場での給餌の様子です。
大きな牛たちに、すぐ脇から乾燥した茅を与えました。元気よく食べる牛たちの様子に圧倒されながらも、準備した茅ボッチは食べられていきました。自らが作業に関わったことで、命をいただく尊さをしっかりと学びました。